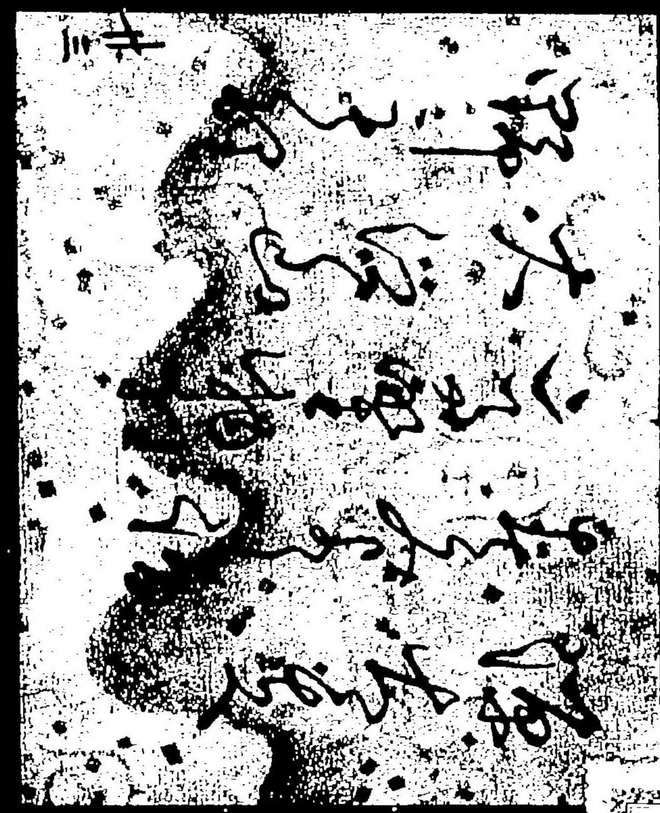
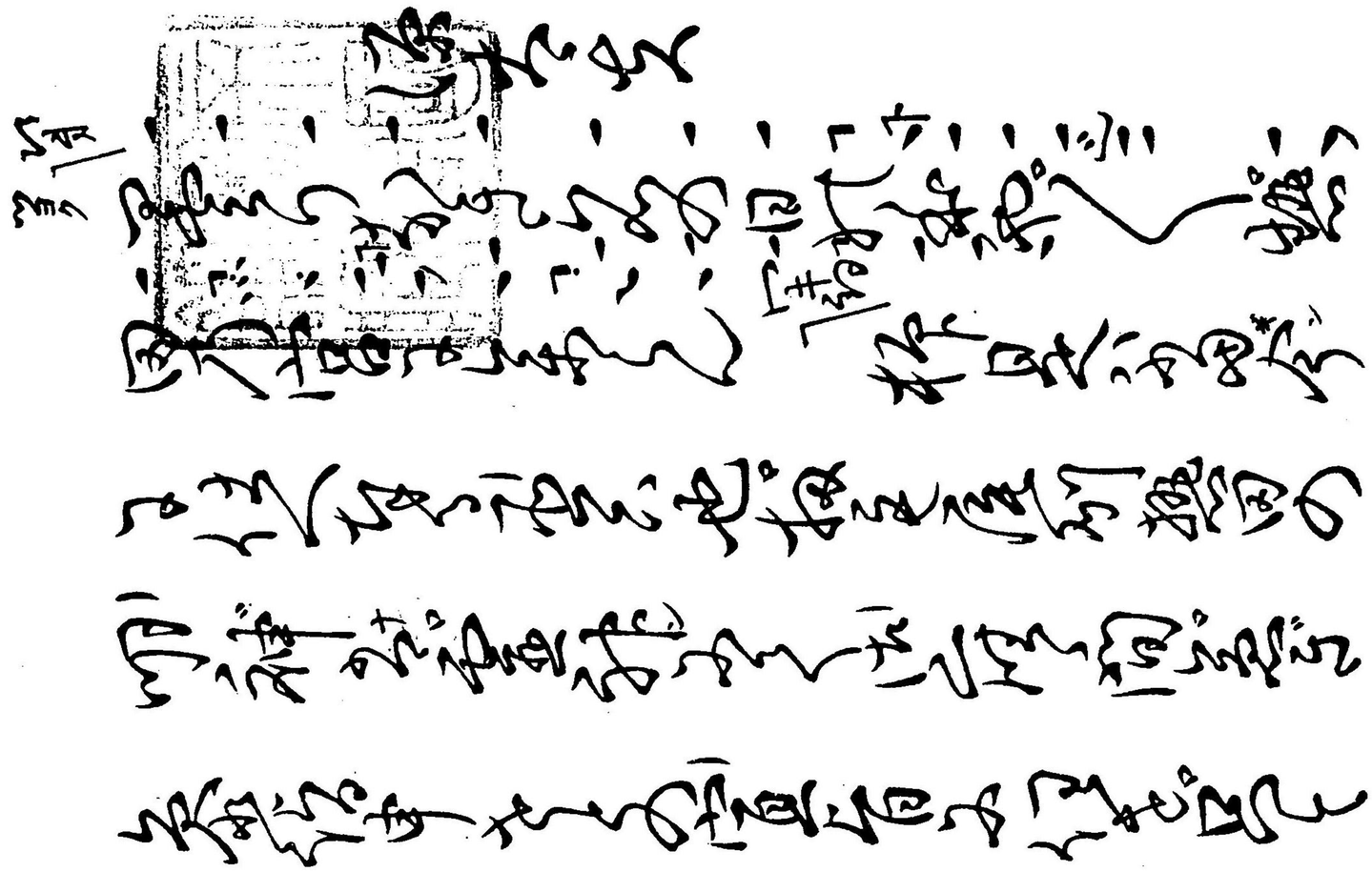


明治
44. 7. 5
内交



屋敷の下向はたらいや何事とも
道あるほとに乃指さしやうく爾
はとさで御乃山と称する名
称をなれども称国ぐるて
見ぞは地畑乃宮ふるきり

一

東ハ清めの落塚と称す
称ぐ国乃松乃木陰う形
神乃御前の瑞籠雲うてを
あるよりはとさぬ　見八幡社
小年ろうまぞる姫れ名ろを也
ぜんまま振神乃ものを指ぐ

かぞへつくせども宮人の舟さしてこぎ出ぬれば海人の釣舟
漕めぐる浦々山乃雲と波とに
うたうゆくゑ氣うらぶれてうらあきの
夕ぶかぜわたる夜通しまて松をそ
打こゆるめぐらさよこえよりも
招れて海乃うちひろくぶをそ
乃彼國ふかくいりこんさ乃ぶ毎
佛れうを拝むに彼の恵を
だのみをちうらをたてび奉
月を送りむかへ
風の吹(ウヤ)
ぐ

門みなれ髪そろふてころも花
とうれハ賑ふ真なき敬ひ心たし
宮ゞ神感もむしやく
我暁天より早々いこゞ宮中を
おもろ窓に星ふ散ちらへ姫神ゞ
を清めたる垣をかこみ気るる男ひくら

ぱ男ハ三ツ遊ふめく御まいりの
さんば星あり高社乃宮遊ひくらは
やまそてかはたる垣守る祈る
ハ庭を清めたる信心をかつてよ　宮を
かゞつる竹を付神もとめはか
かゞなとひ中ある事なり

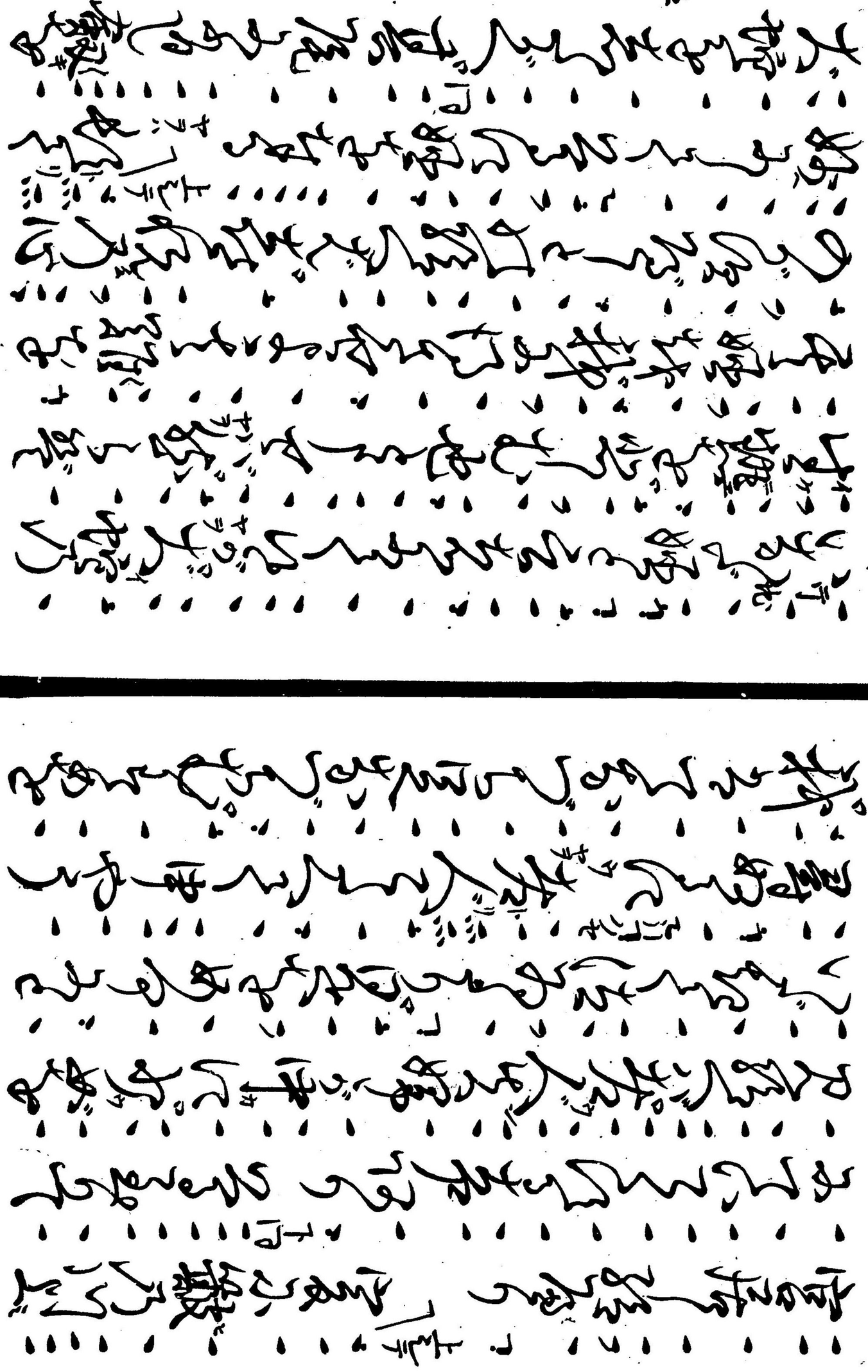
あきぞぐぜんハ大内のみを守る社
やべをれば分てあ内社乃ば頃を国ハ
得だーいやくん　御子審ハ程程
みくいぢ不くくを内社を申ハ出雲
乃大社を御神の出ぐうぐう
上　をくを内時をを出乃ををれをを出を
国ハを動り移をぢをくくをるし
時ハ雲を乃出雲ハ守頃ます
こめハ乃京ぢ離作ををやへぐをを
実をを出諸をを有物を不審を
ハ　　　　　　　　　　　　　　
ハを乃移日を　　　　　　　　　
出事を移ハ出雲ぢ神社を

垂迹乃御事 数〻習ひと語らん
語く 「景行天皇の御宇ニ日本武
乃尊と申ハ東夷を平げ国
家をしづめ給ふ宮家にゆるしめ
給ふ 「是ぞそれ末の御再来
ごりずも海底の宝位なく 「我も

人乃代や 「我のみこと 神乃代
をを思ひ出ひ雲れる程く ちよ
雲るを八重垣乃てをもかりて八雲
もとらに都鳥ハ程なく立ちのぼれ青鞁
名る藤津れば雑高つえてはすね語く
やまと日のうつし依乃夏乃日乃熱田宮

宮移らし給ひし御代久かたの
様の波松風は声やはらぎのさと
すゝも色まさしく若やかも寝
やはらぐ
「ワキ　抑ゝ当社の
神秘ふかく御物語候へ　それ
和光同塵乃御誓願いづれまし

ておろそかならねど感応ことに宮寺
みえ給しハ八之欽乃神位
ちかう「シテ　然れども景行天皇の子
御名ハ日本武の尊、やまと代より
天照大神乃これよりすゑなれとも乃
又ゝ出雲の国に諸まし郷く



村雲の劔と名付し給ふやはらさ
人皇の御代よりはひさしけれ
神ば宮は乃いの姫あり父の君
翁名をとらへ源氏乃神と新
まれなる深き神んとやさしさんと
御名ひ給へり 「雲有かたの神

秘乃やうく宮人あらば御宮へら
御名をとありて拝みなり 「今ハ
何をさらかむべき鐵の川水なり
走り我か手なる樋 「足なる樋
「ちる婦も迄 「あらきもの
やかちくの御法ハ勤なき乃伏ちる

ゆるぶ姫ぐるぐ神どくもぐ乃
うやまひ奉きれば身とくあふ
身りたりでくくハ深ものの神
ぞくくに業ものくくぶ方へくぶく
ぬ所多知くぶ求りまり 天文上 我八
見ぐくぬ所れむるもちくぶ

汁濁ジョクもとはぐ孫縁の宮ぶ
擁護乃神ぐ姫とは神ぐ也
我ものの縁の宮ぶ神新蓋
きんとぐ海道と日夜守ぐ深
大乃神ぐ事也 ニ月十七日 ニ月十七日
なぐ

家内繁昌影向

詠歌所にとめつゝ心を成す也

天女「遊びの中にはさればにや舞楽の

曲も寒し袖返す天つをとめの

シテ「うらうら見えもいつくしき桜かな

天女「花の行方の シテ「雲の上まで遊びの

袖 天女「さもあらはあれ 所望 シテ「謡ひて

天女「かくいゝてさゞ波 シテ「我もまた

昔をうつしたる五節の舞の袖今も

ぬさとる梅が枝をちらで桜も桜ある

楽拍子今ぞかゝる波の立つ舞

面白やあかなくに 楽 シテ「花の袖

乃拍子楽やくはしゑあはれや月

を照らし松風に[illegible]を添へて[illegible]
さびつるわらわうつ[illegible]おのよりて人[illegible]
[illegible]ばかりともも歳[illegible]
[illegible]ますてもの[illegible]
[illegible]ばも妙[illegible]代の[illegible]
[illegible]の[illegible]楽[illegible]

[illegible]殿[illegible]鐘鼓[illegible]
[illegible]時[illegible]
[illegible]曲[illegible]時[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]ば[illegible]ハ[illegible]乃伎
[illegible]ば[illegible]堤[illegible]社
[illegible]乃[illegible]遠[illegible]楽の[illegible]

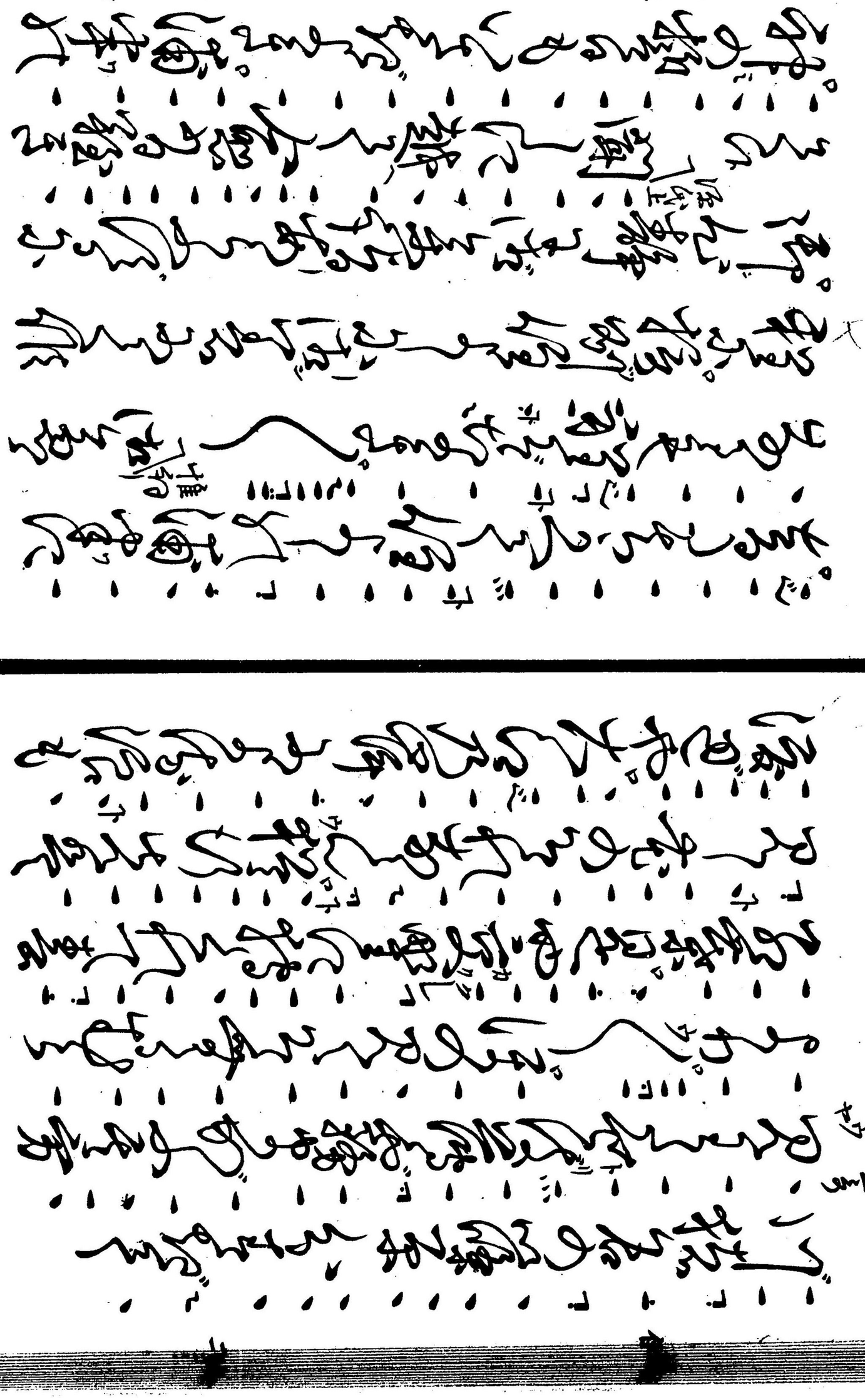
二十五社更ニ一つまつりの
[illegible]
くゝ

住吉詣

是も格別住吉の神ゴ[illegible]園
社何系にくゝ和も[illegible]林中に
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]氏
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
と作出されて[illegible]社内とも清め

ごんげんとなつてぞ世の中はげにやと
なんぞ守護する 小車の轍も遠く
都路の直なる時代の都
是ぞ今上相並び給ふ宇治に誉
も世につきぬ盛えまさる源
氏までおさまる御代の君

頼みをかけし 住吉の神の御諸
るまで満んと今も思ひ置く袂
霞む日影も白鳥の羽の色
照る秋の山あかれずいでし都の月の
俤残る山あかりや尾戸の宿
られわたりぬ 掛けまくも世の中



波乃瑞籬のひさしき御代を守る
あまねく日本乃神のちかひは
わかちなく和光同塵して
結縁のはじめ八相の利物
乃果までも宮民を護
世を治て後世を導は仰がざるべき

上

く「平詞」いつくしみ中にも時とそのはじめ給る
目出度さは「惟詞」めでたに神うけたまふべく
祝詞をとり奉りて「平キ」畏くはらひつくく
はらひ清めんと神主御幣を取
捧げて既に祝詞奏しやす
儀とて再拝敬白神慮をすゞしめ

[illegible]人のはるぬぎ人乃
神樂とゝ[illegible]風[illegible]れ給の音丁
淵の敵乃声ゞ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の
弾[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の玉やたゝ[illegible]
人快乐。[illegible]同淵ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]。[illegible]ゝ[illegible]の所[illegible]

今淵ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

用よりおもひよりて言はんとすれども其時
お敬ひ奉る尉殿今は行方知らず
一杯の酒の中に乃水皆色代
世の縁とて白髪の白ちぐ
さまざまに我が心くもらしく成ぬ
ぼよりれ岸の姫ゆゑ川崎世

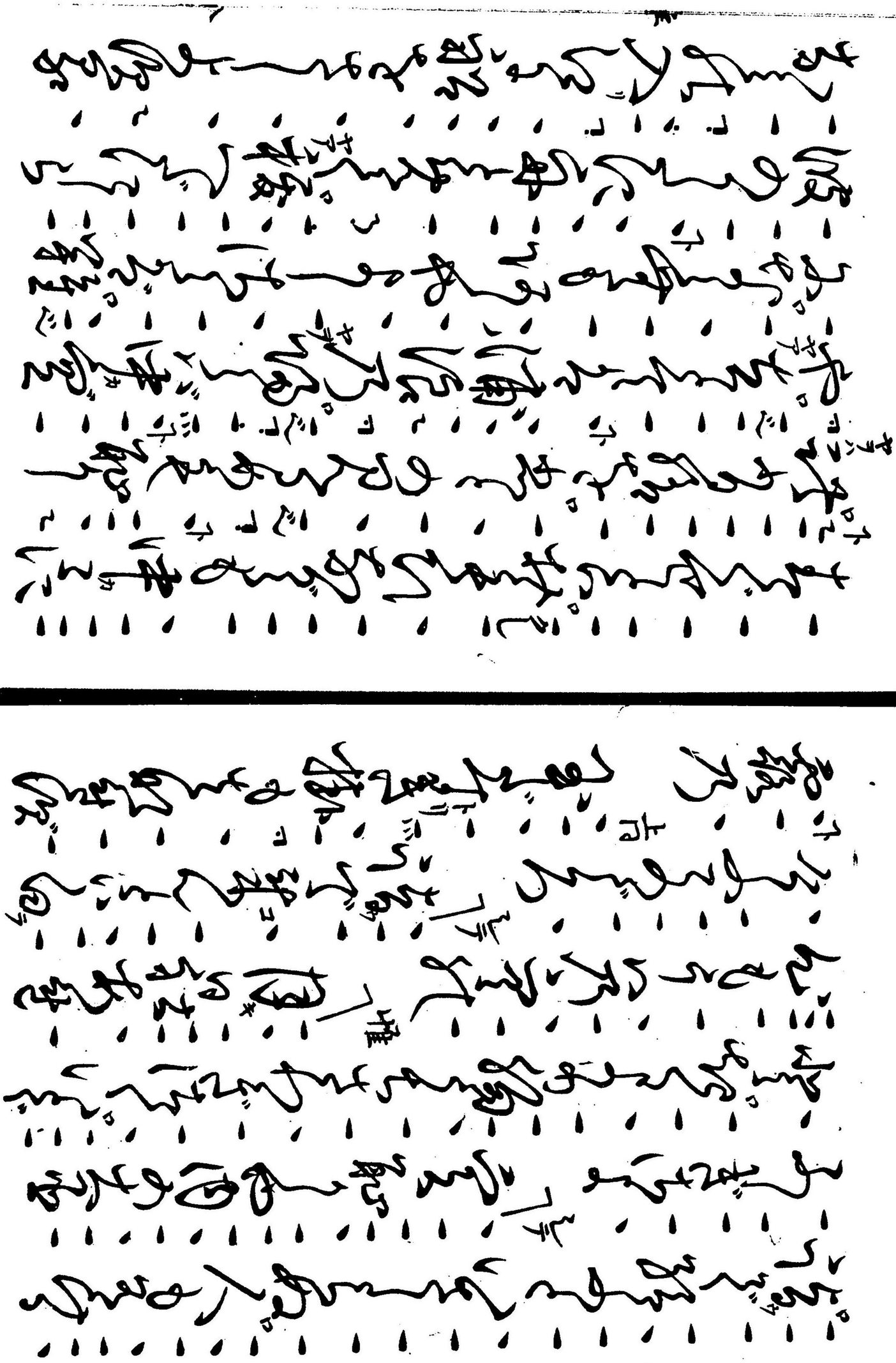
強ぬ代の代の舞乃
扇くぱよりくぱ回ぐ手を
有明の月の浦のぐく
あ新ぱよりれ案とれ
清路の名ぱ駐めれ
く

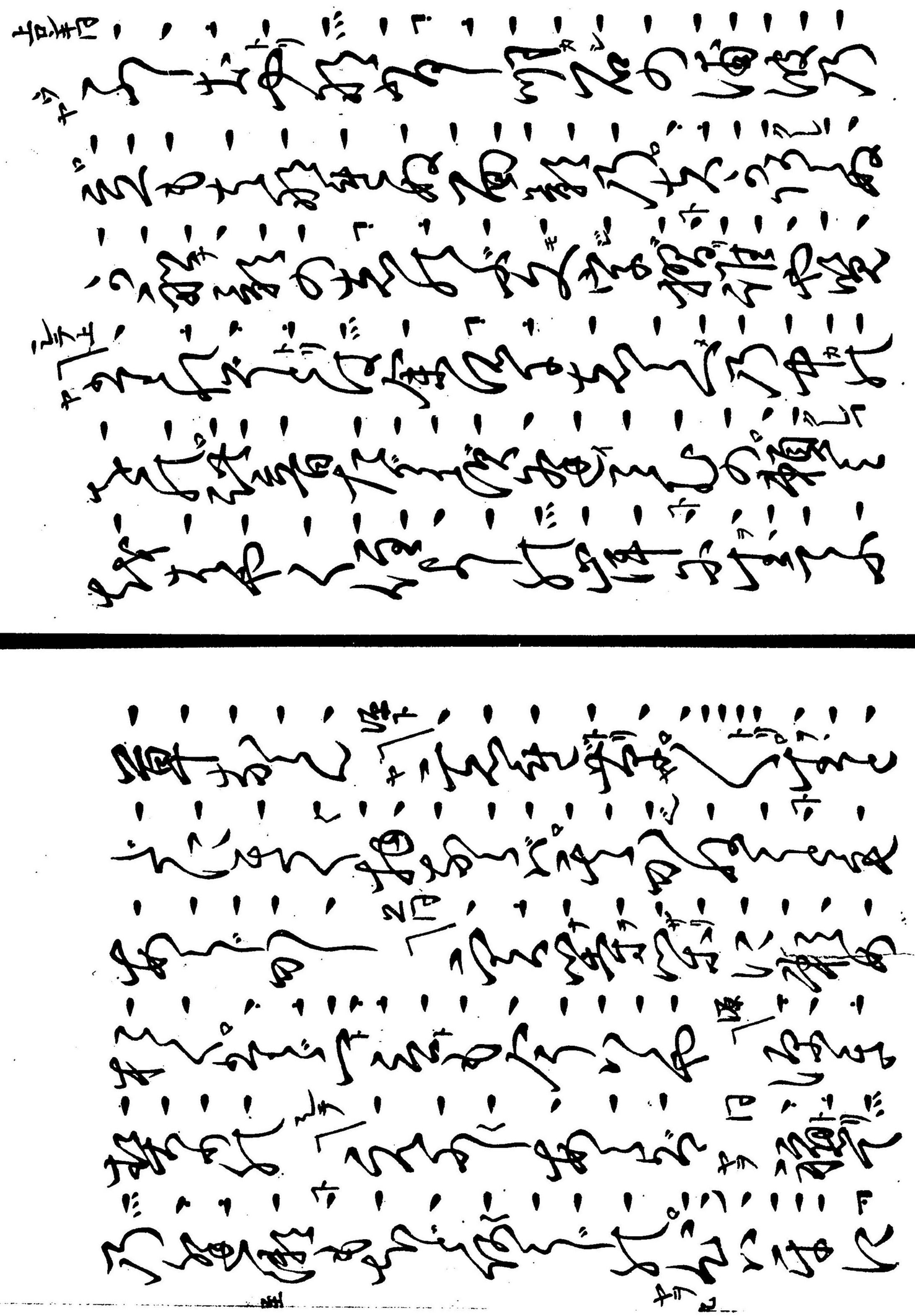
一セイ上
ツレ三人

上

行くすゑも静かなる浦伝ひ
秋過ぎし後の山あらしはげしく
霞吹く越へ行く須磨の浦
まはもいかにふ君結もや
てるや難波堀江よりなるなり浦
浪の花には白雪の津守の

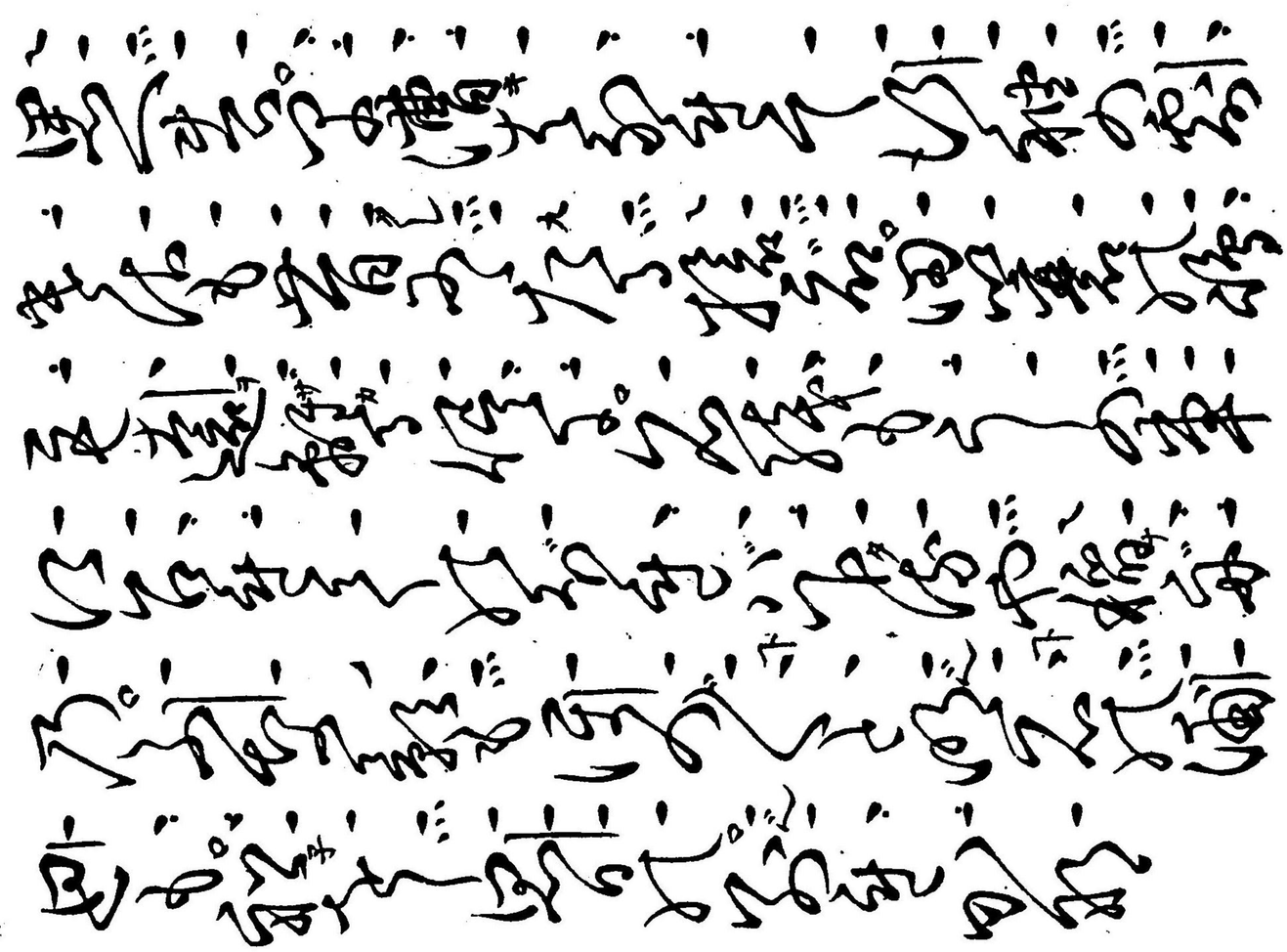
ツレ二人上 松原の
浦に着きにけり
深きみどりの木隠れの苔の露を
ちらさで露ぞ人の心ぬく
我等に寄る浪立つる人影なる
なる人そのやうはむ 惟上 是は都
方の君国のみならず頼むに





かくぬる都も盛の後なれば
惟えも　めぐる流転をさぐく
然　解けて恨の数々思ひ出のそで
ねさめのなつかしき移りの辞
みちのくのつらさにて
ゆめぞ見　思ひ出るろふみ意

ぬるぬる　数ならぬ　難波の事
宿かりに何となく思ひ
そのまゝ　ゆふぐれの心も夕陰
みる事なく　入日乃田鶴も
声惜しむぬれど岩ある柳うら
かくあるもはかなく夜を離れみやこはくれ



成弥太郎の舂満殿と申して御
子息乃法師ばかりとぞ聞
預き置きたりしかば是をよろこ
びあるべきよし親とる者とも有る
事和殿乃御位牌とちがへて
今日命日のよし宮ばらより
燒香せんとぞ申さる　出家仕るべ
名法師ぞ西方名阿弥陀仏
後の世現世安穏にして利益同一神
ぞ有難き御願ぞ形　黒眼視
宮ぜ悪くぞ善きの日れ
影乃暑きよりの世の苦を授の

世のきらく新世をすりくらし
心ゆかぬやせんたんはたゝかひ
せんそうをもとめ人ごとをきらひ
まぬ来世ばかりを選る園夜乃
燈火河水乃渡ふ毎もとるに世
しらぬ者と思ひ人ごとを今も

捨ては徒よ文金ゆるんなる
新しき世新りて世は世の後
深めぬ世ばかりの時もおそんなを
ばうてつる世の定
毎世はまちまちなれば捨てと捨てる
為よいばかりを父母の恩を

およばれぬ程もと助さんらうずねぬの
たみ萱変られふなそでもと思ひは切つて家に
もと玉の緒行ば道々越へ他に毎は
なおまし甚後しろ暗おてき銭秘見るの
まうしにせうとも母君歎みつるに角
とも串かんげくなるか実らぬすなとも

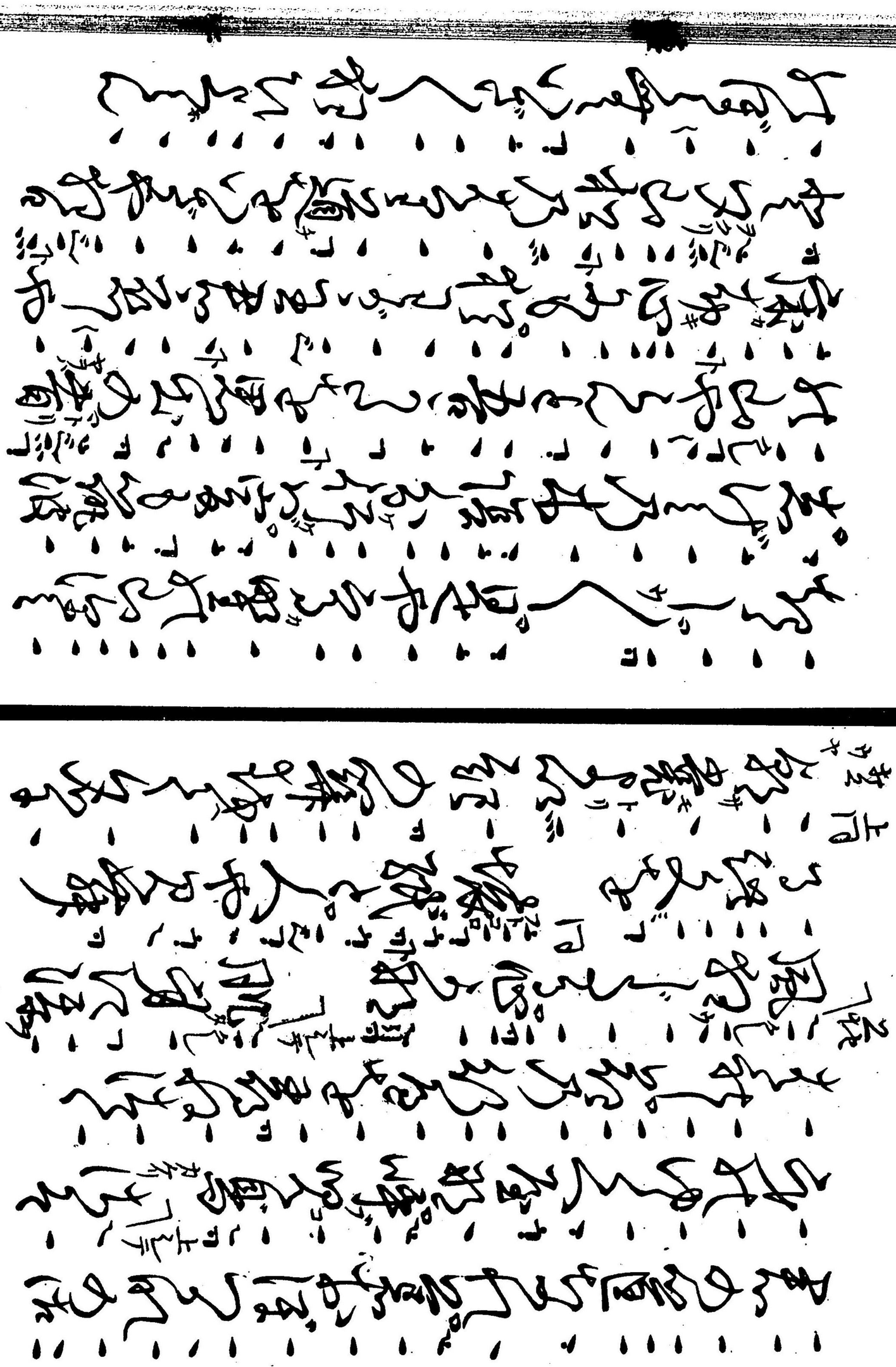
此ちうらにてび別る心せつく
はかなき縁らう情うはくれぬはるなだ
ねのまふかやよ此ひら年がうちにはなかれ
らばくわれゆくやともちかとせ串
さんげなき縁らう情うはるぞ思ひぞん
思ひはすてども流石世をせはずるの縁

社神主濱乃りと　撰ばされる
言の葉乃若木　枝を出そめて
栄れる果をめでまくん　旨
めり乃法事　能世を出て
孫ふるもこぞ乃道の末あれば
いづくに迷ひ法乃伸び

孫ふるゆく末乃
彩雲は信濃乃国乃八ば
くもりなれ孫を慕ひ仏芸
知る乃道ふぐ出ふ乃く
時は童子　乃神くぞ星
深乃孫ふ乃　日ハ乃星山乃

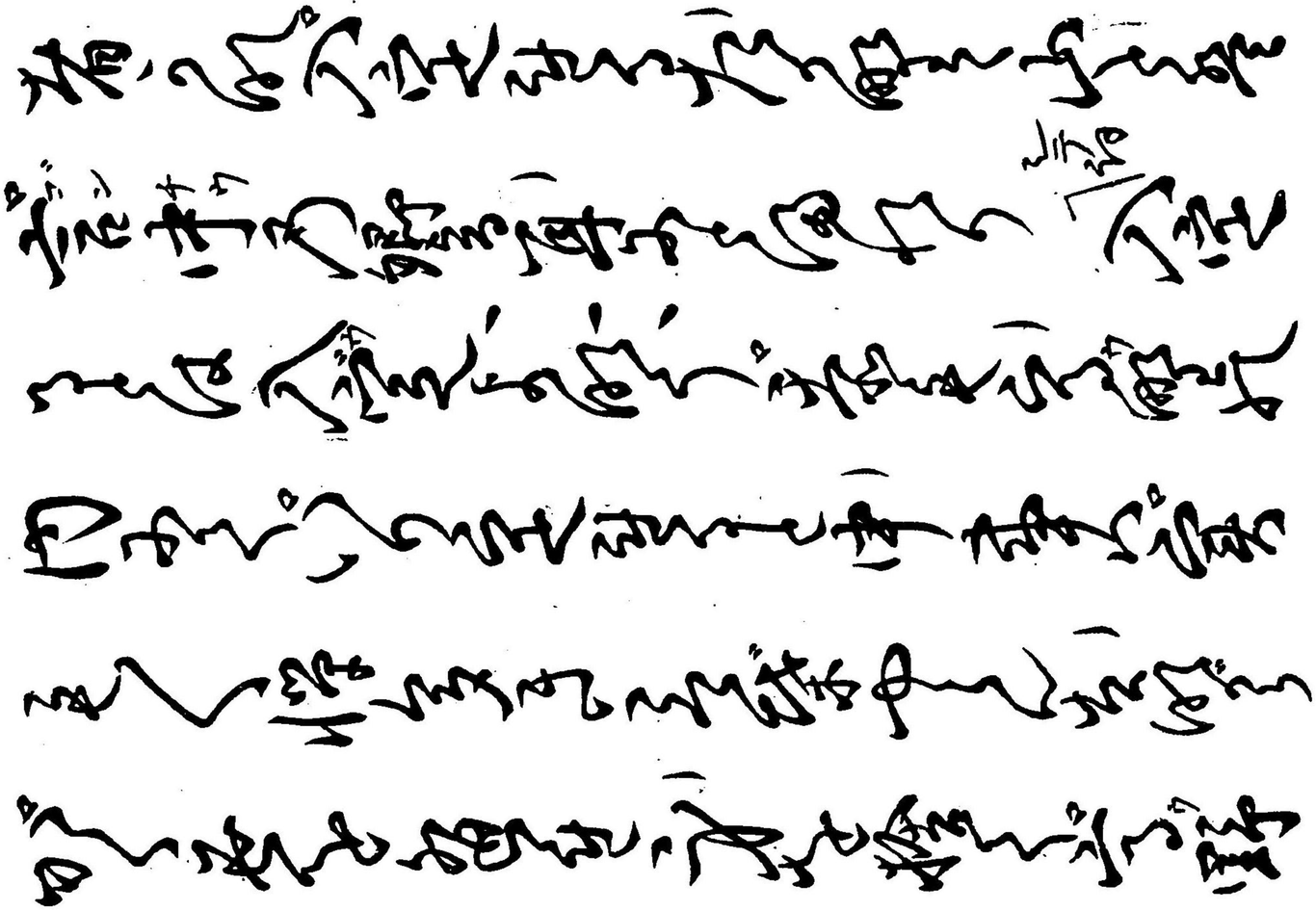
何僧みるに見て法師雅なる人
をいづくにか知りて愚僧を頼
師事れ給へとぞ申しける
三鈷の杵をば法師取て
とぞ云ふ（扱ヒテモイ）（引ク）落しぬ
[illegible]

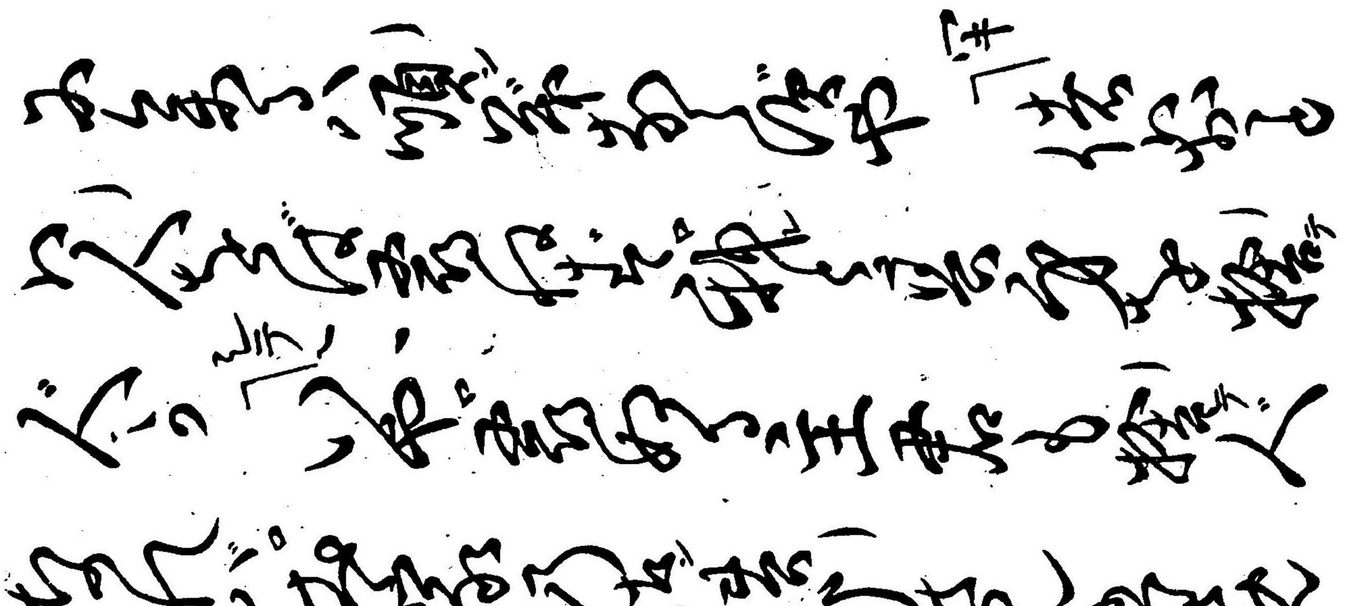
乃越の守ハ武蔵の国ハ坂
郷の指ぬ君を見れぬ中の親
れてこそ君をこそ帰りて居れぞ
（上ヒ）（下ヒ）
切君を生ける法師をば乃
[illegible]
雲ちる所法師を雲やあるとる
（中）
ぐれば雲奥紙みを送るとて



[illegible]
いづくとも[illegible]
[illegible]
[illegible]

より[ヲ]ぬる人ぞ　「ニテ」　こゝ結ぶ八重の草
をくいぶせ八敷下みてゞ奇を喝し
数掬[ツカ]しる物ぞ　「キ」　大抵の
物ぐるひまるゝば[ヲ]ぬらるゝ野[ヲ]を肉[ヲ]を
吋[ヲ]まゞ人なる[ヲ]ぬ[ヲ]ぬ[ヲ]ぬ

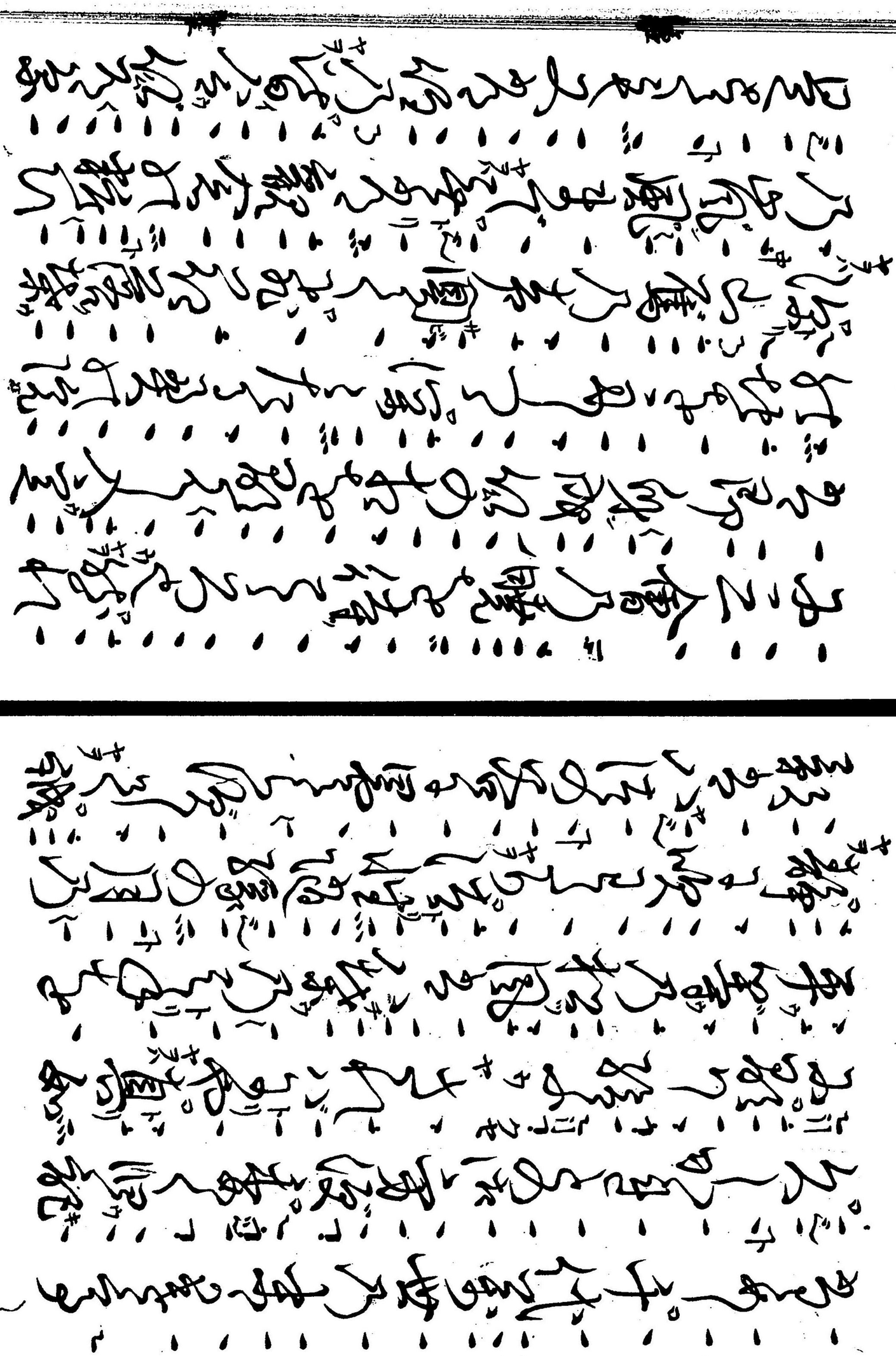




うぐるぐ　仏やなもと改めて
義仏初孫乃形なれ　義心和
孫のうちなるべ人仏不二の道
ハ知まり心　生死形なる仏性も
犬師の所ハ肉仏三昧目前なる
アラはさ所くもし人仏不二あり

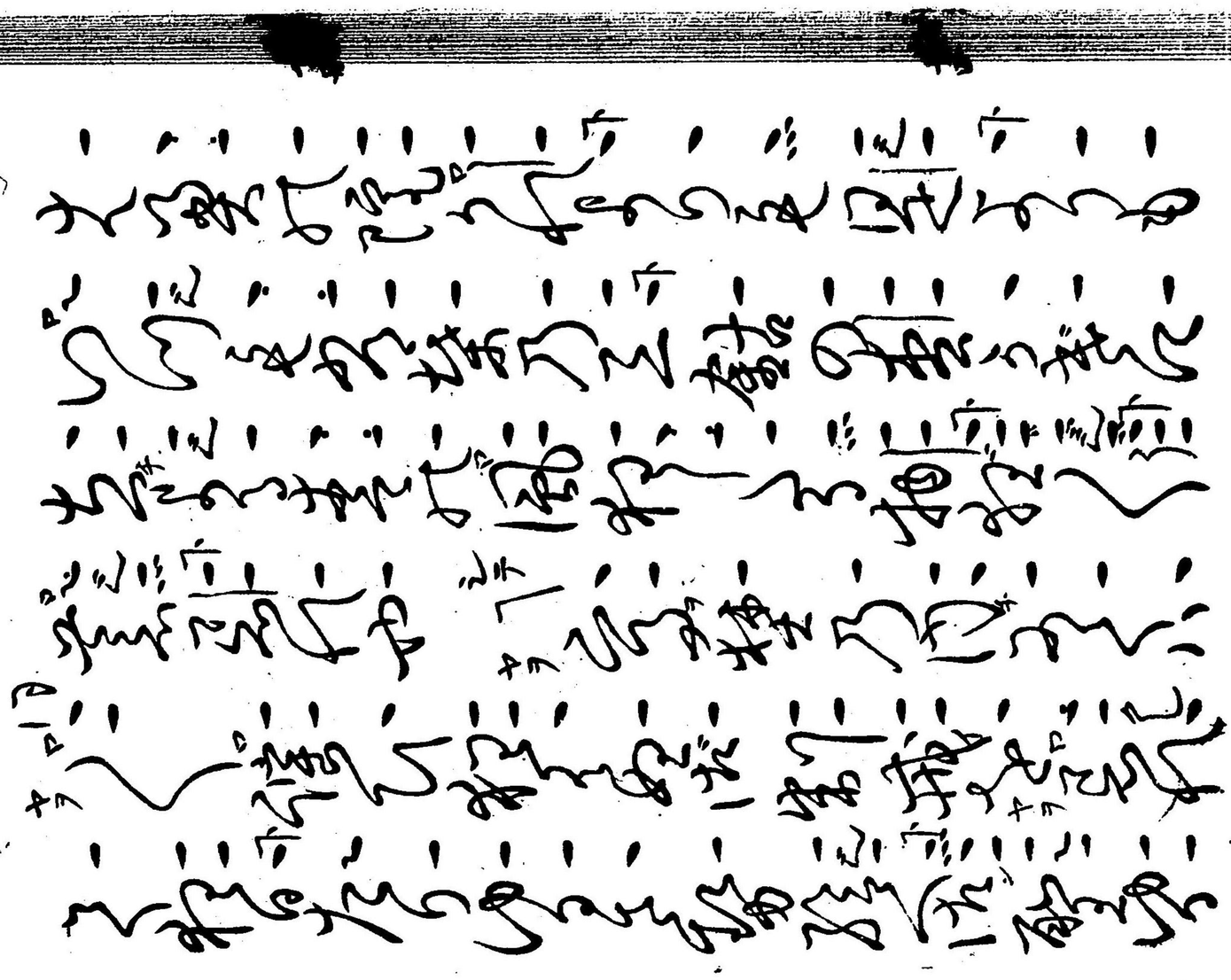
対勝なるうちなる犬師ハぜ有はぐう
はず泥盤不　入定まれるこう
野乃奥　今世なる間乃あり
ぜ有落懐の印所を授うり蓋氏
対ドはなを得なる事人仏不二れ
鮮なり　犬師乃得なるハ蓋号

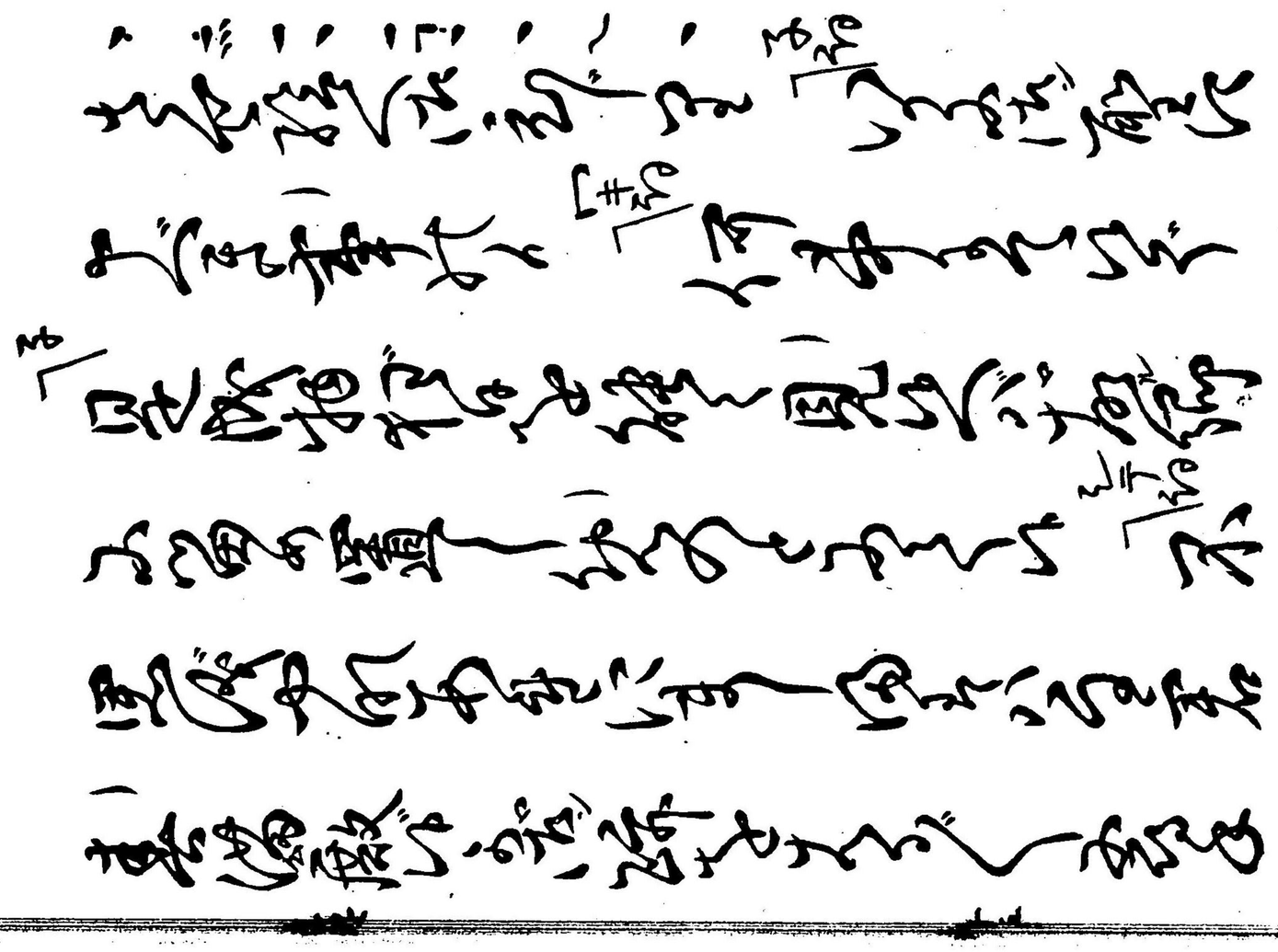
こゝしつ
三會乃曉ハ人世の夢を君ぞ
覺めぬる
柳ぞ
柳
柳
柳

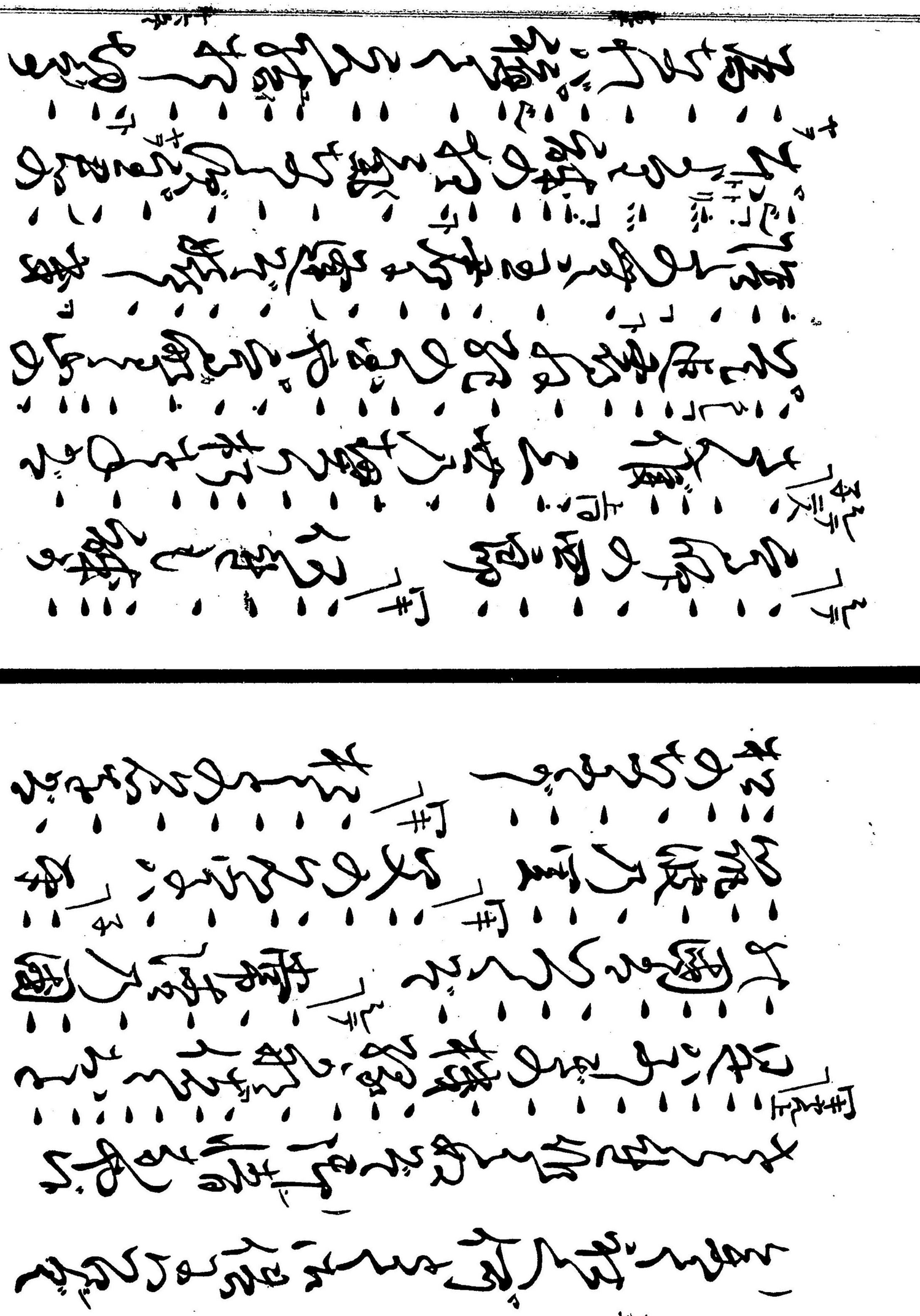


[illegible]
[illegible]
時うつりぬるかや　四季打くれて
[illegible]のづらかす信濃路の時人を偲
ばれわづらふ[illegible]紙鳶乃雲[illegible]
[illegible]
うまれうかれ[illegible]海[illegible]合[illegible]ねの
[illegible]
風常楽乃[illegible]の称名妙

[illegible]
[illegible]り滿くてぞ[illegible]
[illegible]
行の風ぞの[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]



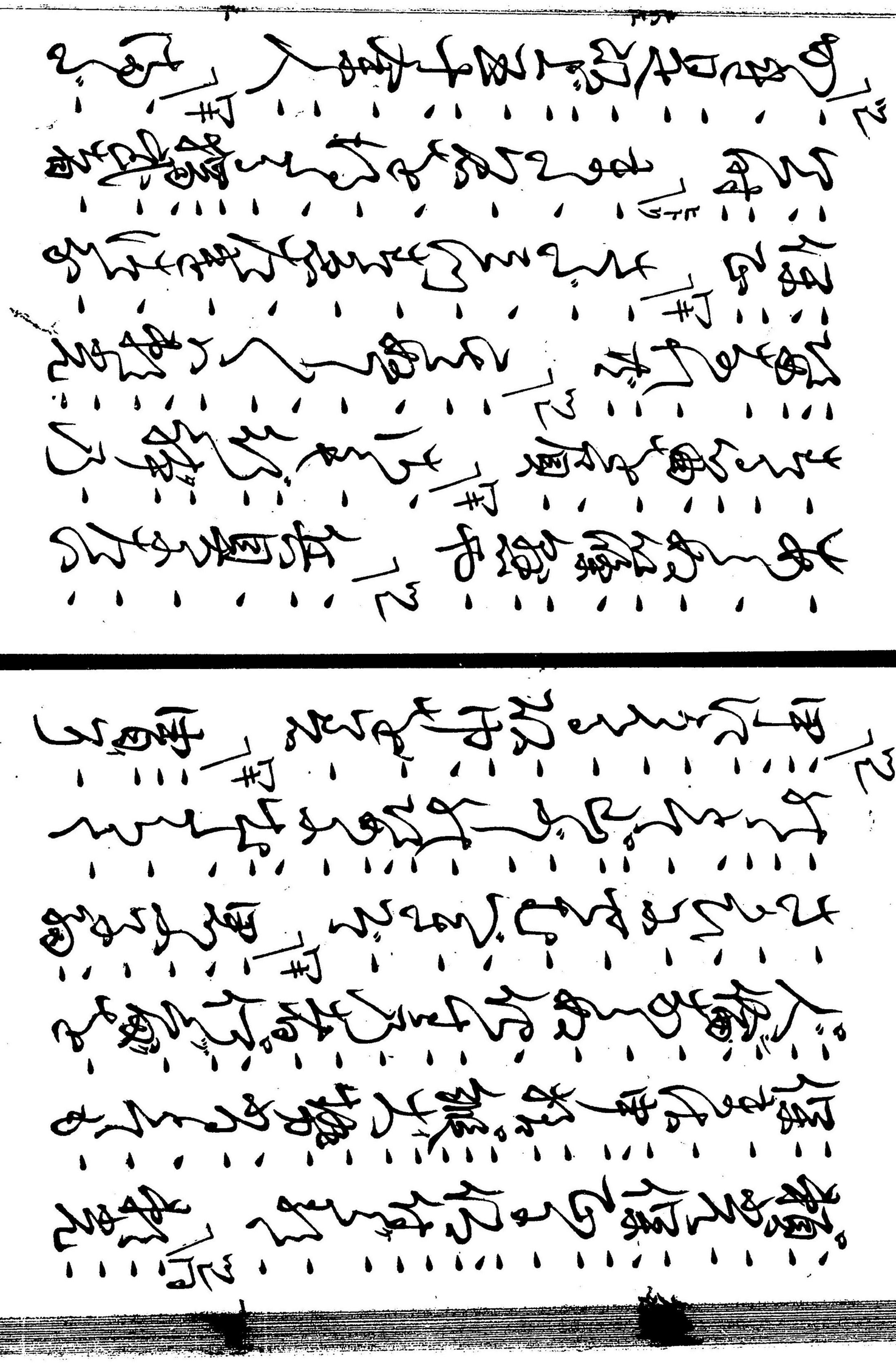




ぞ、家を保ち、身をやしなふ。
おれば捨てべの邪
宮こ主従乃道とぞ

大江山

秋風乃音ハ
ぞ、も行ちりぬ
原乃頼光
世度丹波國
事ぞ、ぬ



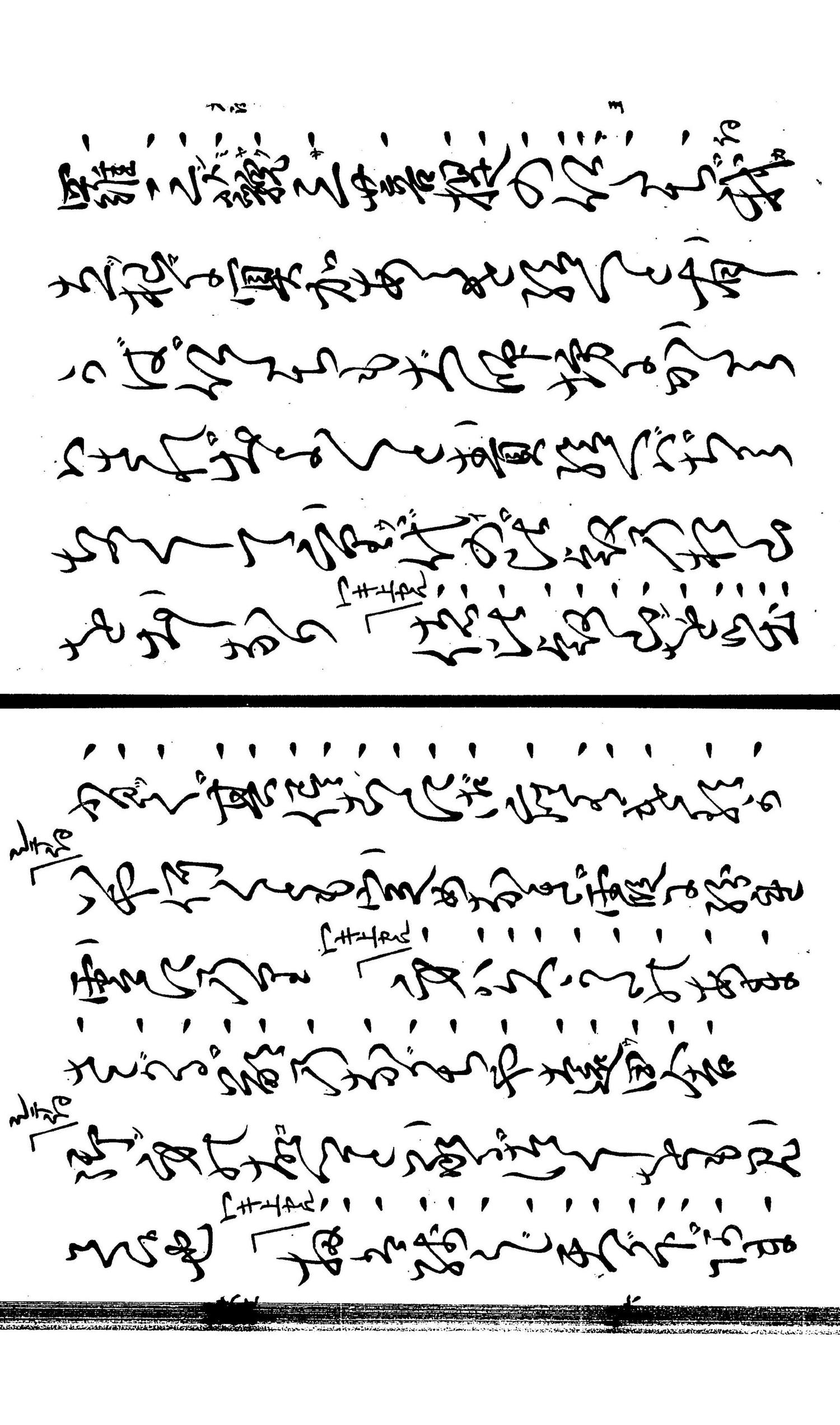
[illegible]れうちたる明[illegible]乃　月れ[illegible]を
[illegible]立[illegible]く[illegible]く行[illegible]来[illegible]で西[illegible]や
[illegible]風[illegible]そ[illegible]白[illegible][illegible]乃[illegible]雅も
[illegible]のもや雲[illegible]りと大[illegible]の
[illegible]ぬ[illegible]ふ[illegible]く[illegible]方[illegible]ら[illegible]だ[illegible]ら行
[illegible]や[illegible]れ[illegible]乃[illegible]ふ[illegible]者ふ[illegible]

コヽマ
く（宇[illegible]ヤリフアリ）[illegible]て[illegible]童ぞとよぶ[illegible]め
ちる者ぞ[illegible]て何と心[illegible]ち[illegible]れ
[illegible]夜乃[illegible]宮と[illegible]ぞ[illegible]あ
や[illegible]植[illegible]天[illegible]に[illegible]諸[illegible]叙
[illegible]出[illegible]より[illegible]れ[illegible]宮[illegible]ハ手[illegible]
ちじと[illegible]く[illegible]弱[illegible]や[illegible]り

ぼ門乃ぶまれ廊下留めしを
テニヲハ
めつる宮仕まいぢくより何さへ
はい通りにくだぢ酒やがへはいたみて
いぢ　さんが日きさう祇園ぶ
乃宮仕みてがが様のさんを
だくより通る僧まよひぢ船後
を乞ぢたぢぶ
宮仕より仕くぶ祇園ぶ
酒天童ぢと申事ハ行とする
習みくいぢ　神ぶを酒天童
ぶと云ぶハぼ宮仕ぶ軽ぎる
おとぢれぢ日きを人ぶを聞ぶ

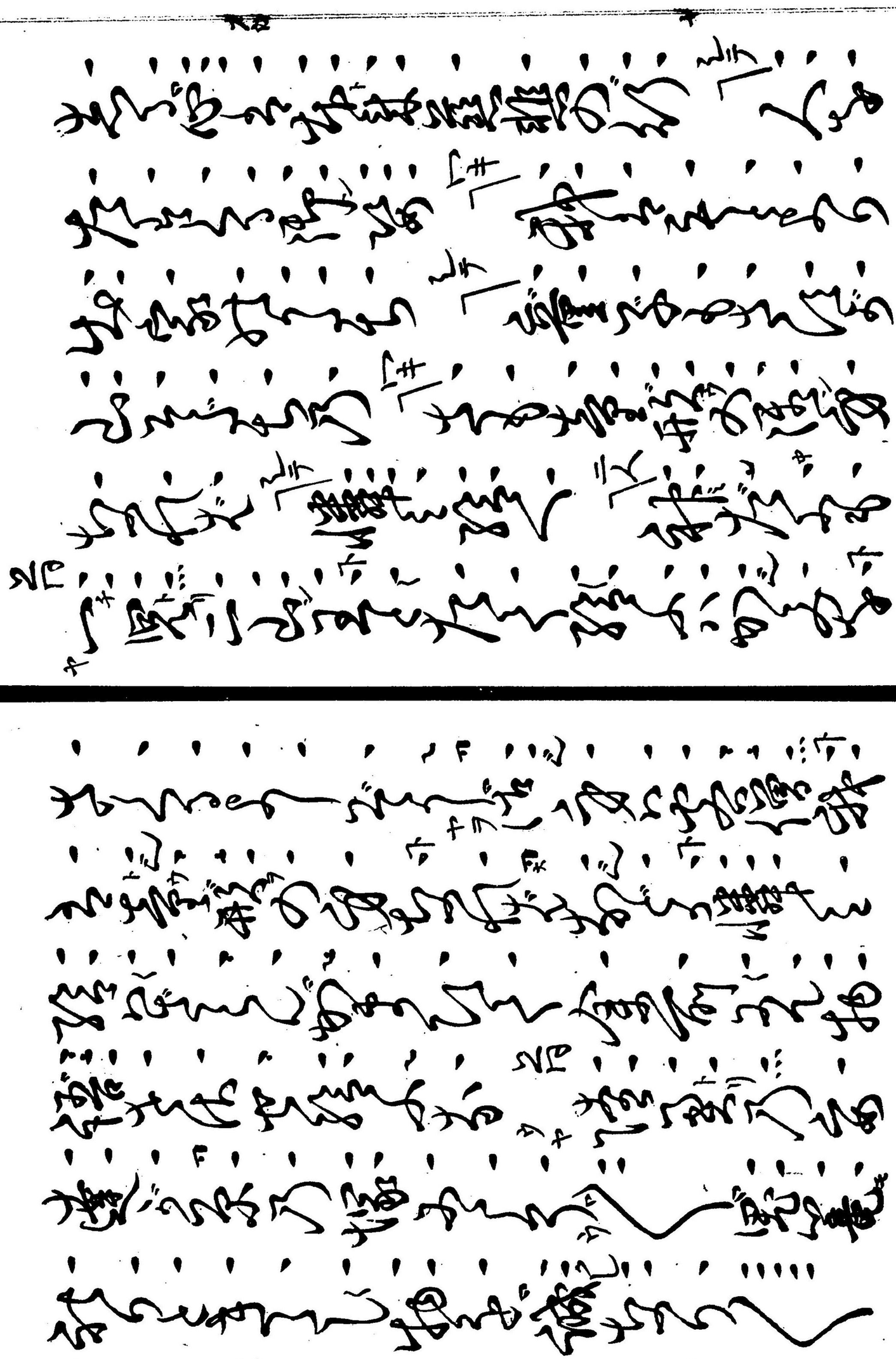
はきくもほどほどに面白き物語
なくに宮僧達もそらもまたく
石れく仏のくに行なひ
下ざれくしに法師ばかりの法
より外は仏器なくにぞつれ
比叡山に重代乃法師とし年

月を送りふだ師坊といふ者を
人の頼みの根本中堂をたく
様ふ七社乃霊神といひ
無会さにおよ三ナ仏丈の楠
とまりくに宮場をとりきる
だ師坊宮百ケ所稱名



さぐる日乃経緯ふ　てゝ
ふ行脚して　キ上　あらひるゝ山
　　キ　白山立山富士
伯耆の大山
乃だ嶽　てゝ　うらの乃宮の月み行き
　　キ上　てゝ
和ゝ
輪田みてゝろひく　キ上　都のあち

　　てゝ
　　キ上
　　てゝ
　　キ
　　てゝ
　　キ上
　　てゝ
　　キ
　　てゝ
　　キ上
　　てゝ
　　キ



[illegible]
道は野もせ[illegible]
海ばらの[illegible]
なごと知めはせ[illegible]
をすすきよく[illegible]
ぞひも秋の[illegible]

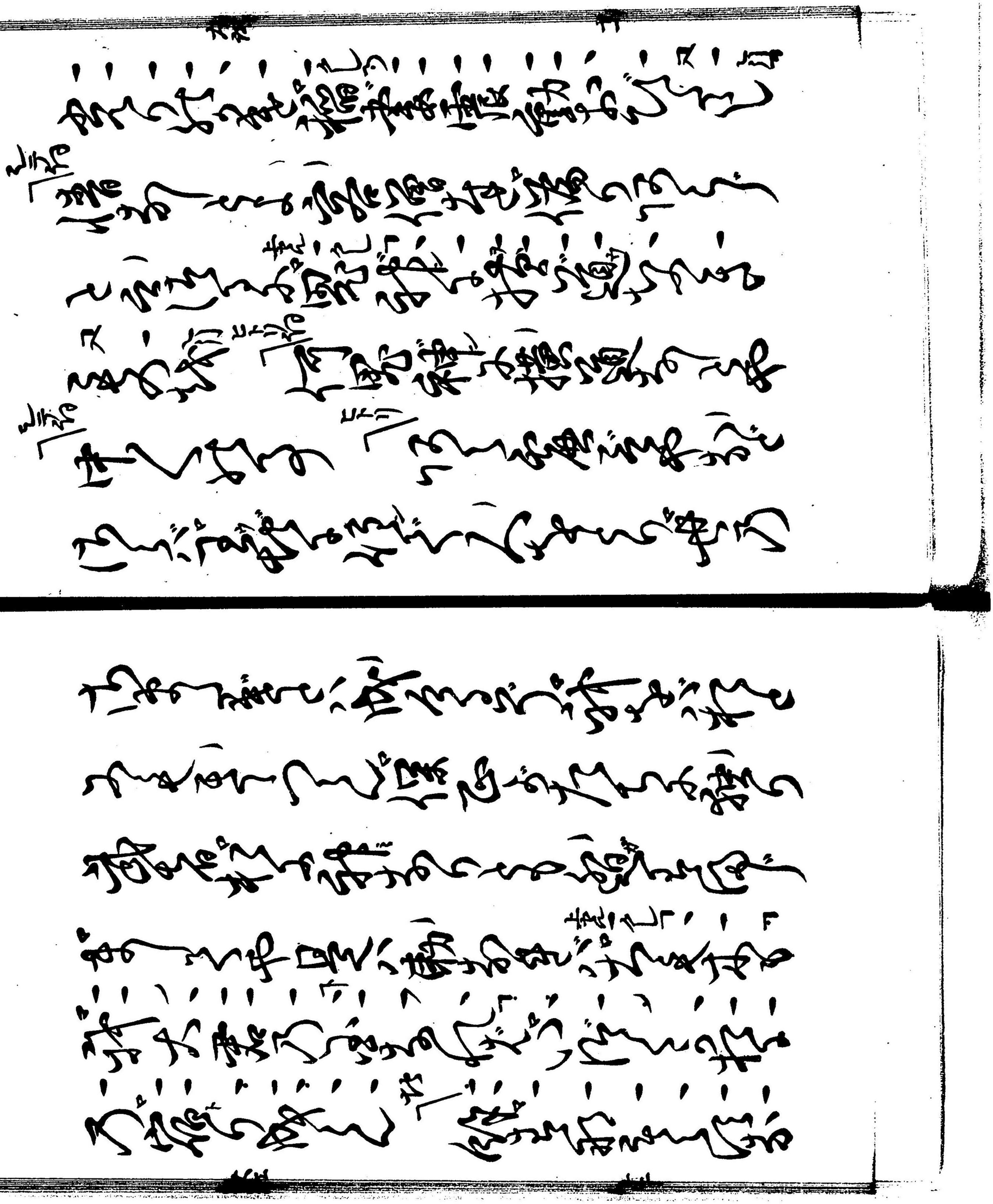
わすもの[illegible]
[illegible]
はせ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
猶く思るさまなば

有明乃空も[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

かほ圖を見乃掃鉄の戸ぞ
押ひらきぷれば不思議や今迄八
人ぶりとりとりたるが　長
二丈だらりちぶく見物の転ひ
眠りたるだるいとほひめあらを
たらふきをしなの御ぶくぞ

事なれば迚命を君乃あつ
林国氏社同無やの備山王權現
我れたちをきりたる頼光保
正綱の時さぶらひきひら
武名心をもつぱらと
ふたる思ひをばたぞ



[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

次第
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

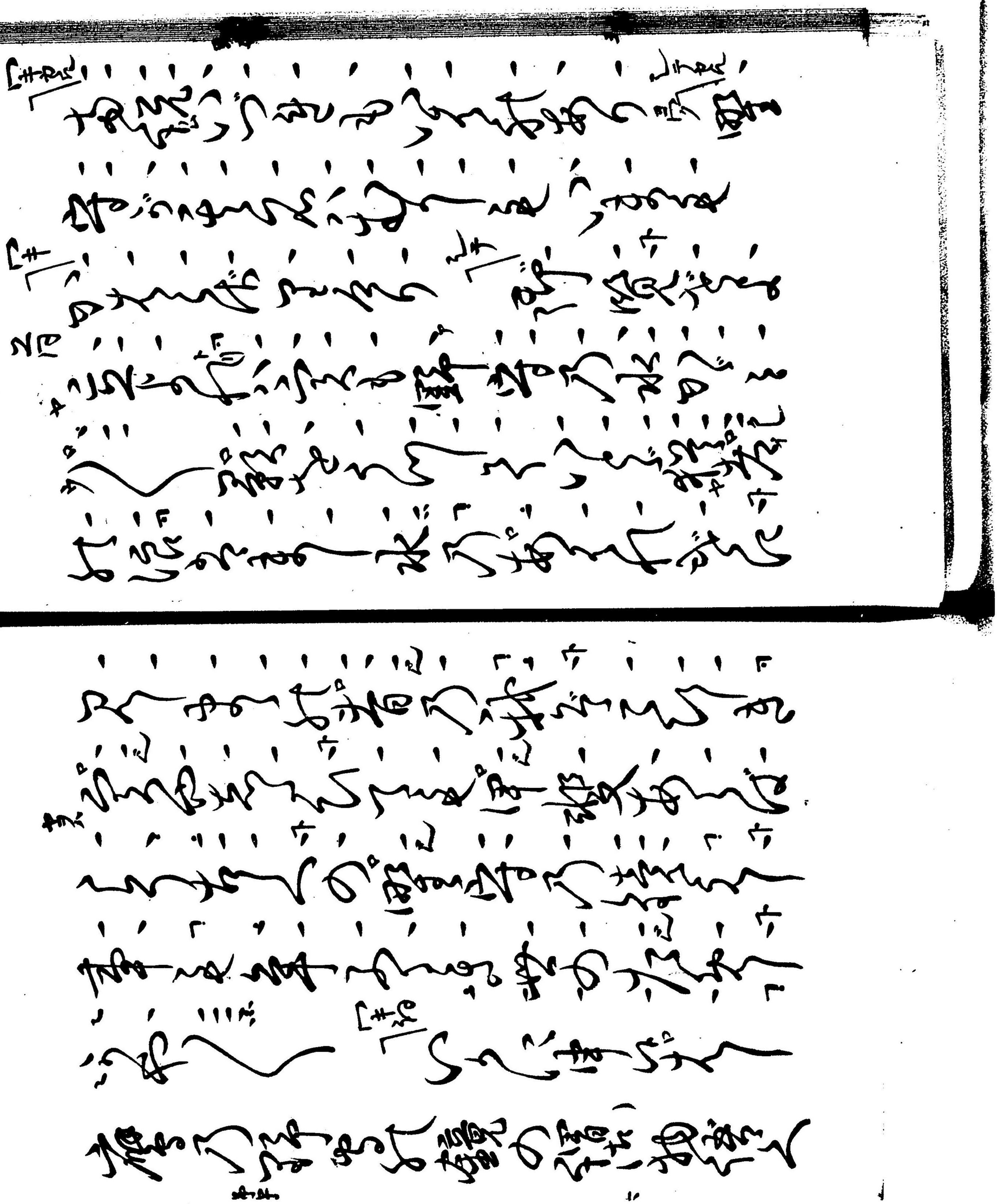
草枕くゝ[ウ]ぶしに夢を起
別し床の眠を今更なつかしね
乃月れ影さよ[ヨ]ぶ西へ行金のあ
家乃犬和国にはまりくく
[テ]ヒイ[イ]
春日野乃燈火の野辺やく兄
社ぞ尽くく行ぶ若葉はめ
[サ]
見ふせる夫[ウ]人[ビト]の姿春日野
年を経くゝ山ふ面白雪ふる
ゆく野守乃見[ミ]ぬまくれなり有
ぶ[フ]や義経冥[ウ]行乃さのいろ
笠乃山ふ長国ふくぶ宝[イ]雉[キ]
社社のゝぞ春日れ雪にさ行く

[illegible]
[illegible]
[illegible]

みくにぞ「ヰ」古事ハ世間乃人の
さゝぶ「テ」見ハ古の事日野社野守
みくに作「ヰ」野守みてゝまゝ立たバ
見にゝよ「テ」有ぎ野水乃ハゞ石の
あるゝみくにの「テ」見社野社
鏡と申水みくに「ヰ」見面白
やゝ野社鏡とは何と申たゝふ
みくにぞ「テ」我くぐゝ社乃野守
影ゝ影をゝ行ハ行ばゝ
乃鏡と申ばゝまゝの野社の
かゞみとゝむゝ思神乃持る
鏡と社乃ゝ乃「ヰ」何とて

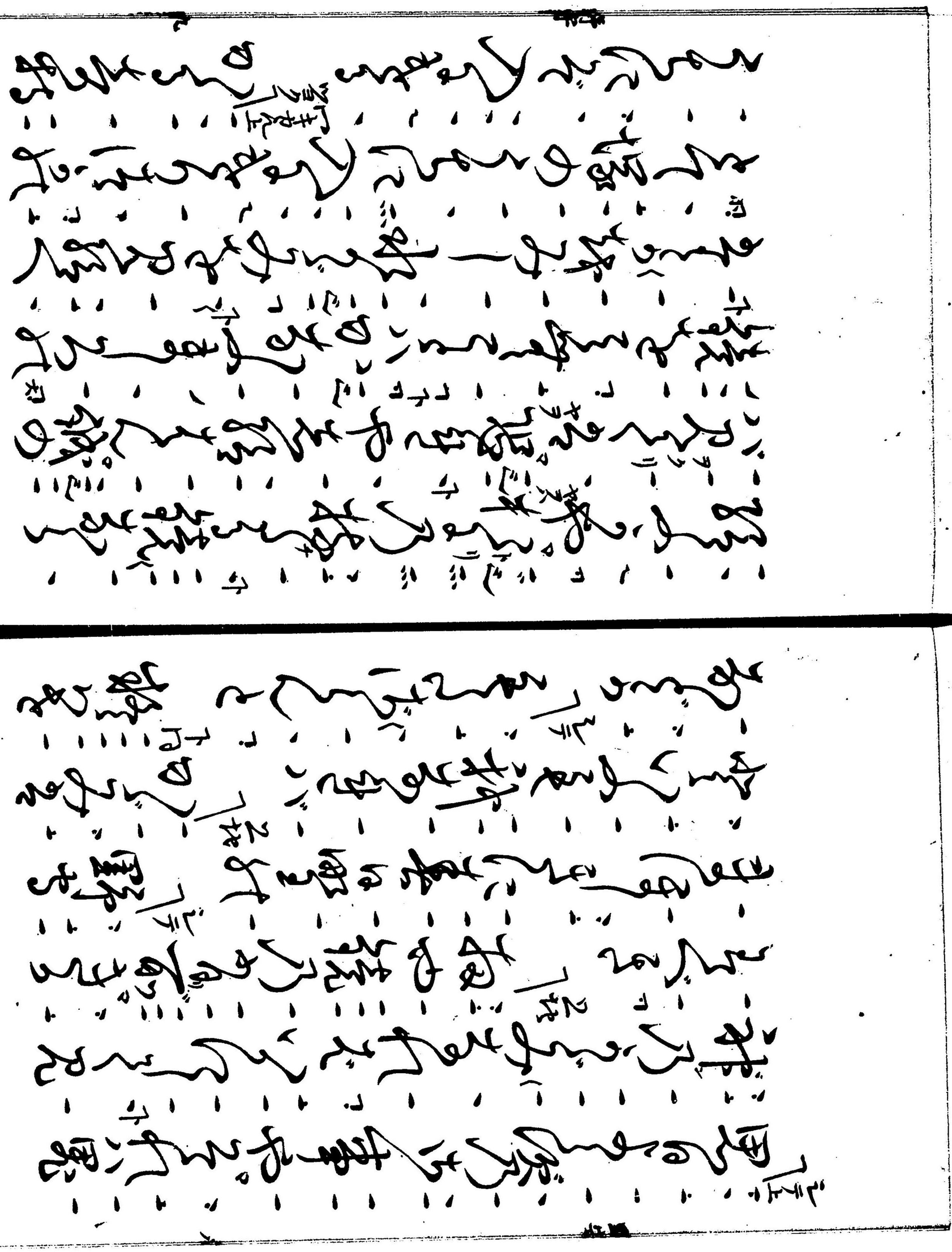
鬼神乃持たる鏡とハ聖もち乃
かゞみとゝ申しなり　むかしの野ま
住きる鬼乃かゞみをとゝぐとゝ
人とちかくこれ聖をまもるなり
わかゝ時ハ日さしたる時ハ住きる
とゝ申しなれば聖をもちける鬼の

物のうつりたるなれば野にとられ
持たるハ申し　渭（きん上ニ）
一一一一一一一一一一一一一一
一一一一一一一一一一一一一一
一一一一一一一一一一一一一一



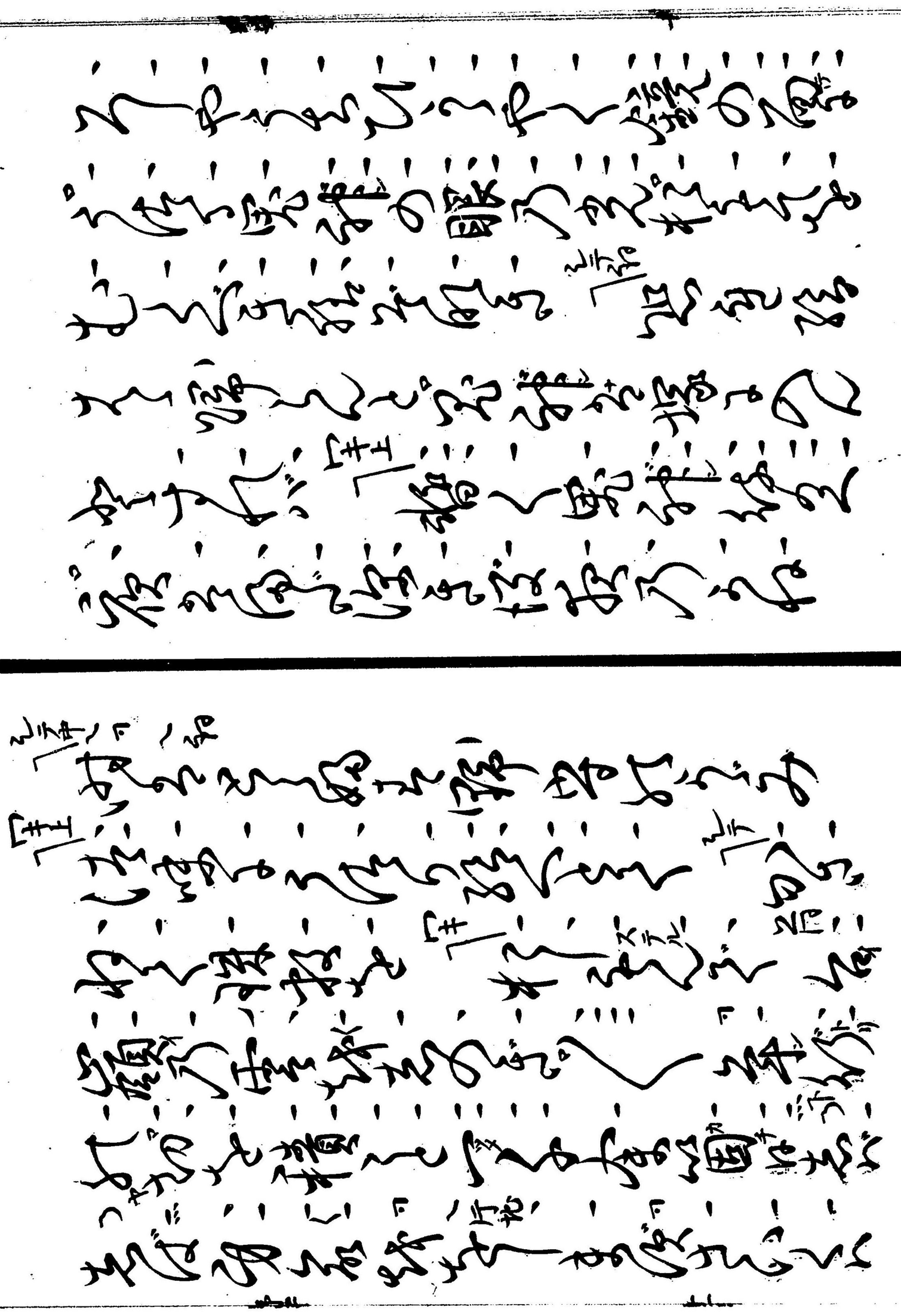
[illegible]
[illegible]
[illegible]

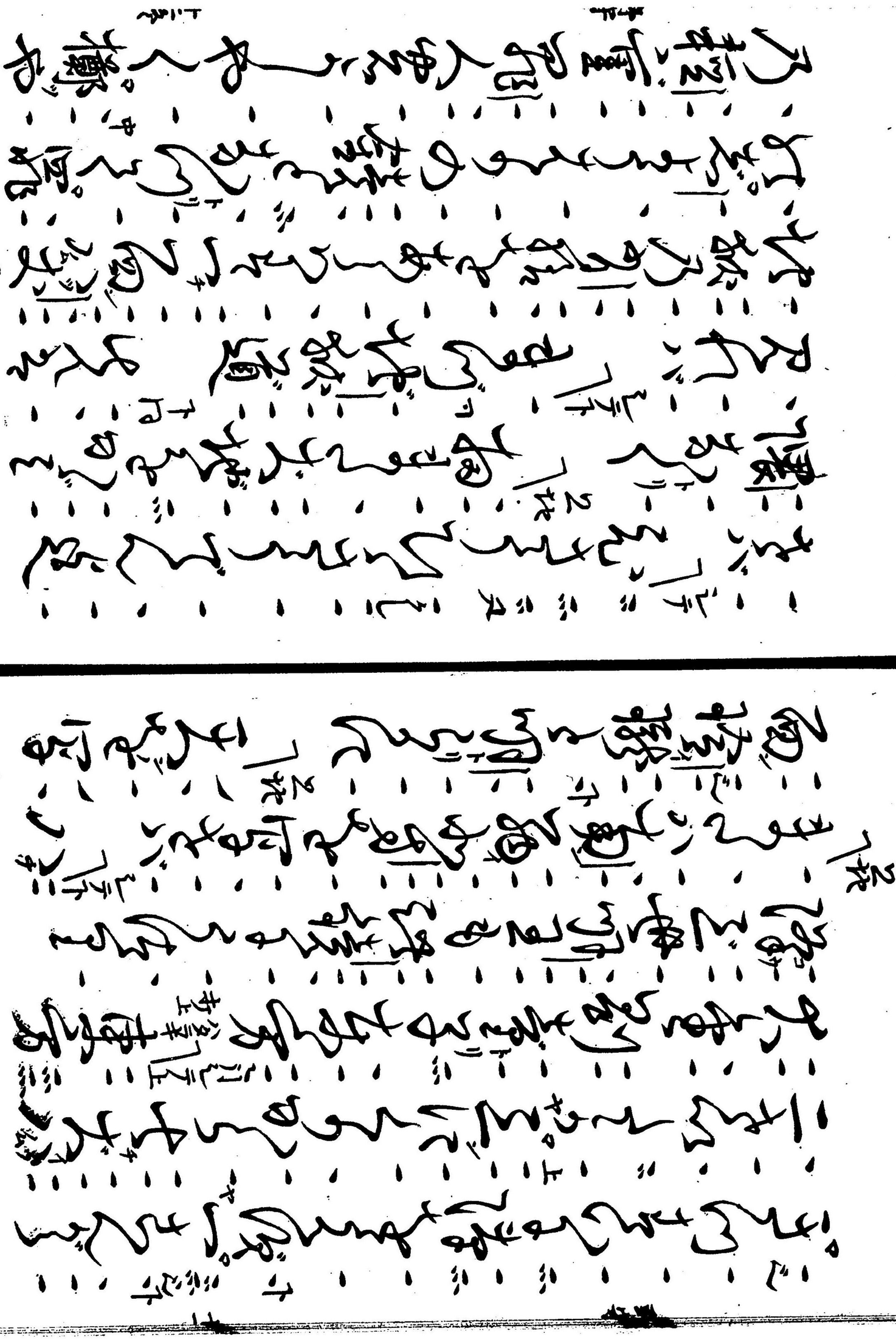
[illegible]
きくぞやこの夢ハ本居よりの
きくぞてはたらけ
聖ものれ鏡をてぐ男ハ
さぐ今何かぐんとよみし
をまの乃ゆをゆるを也
誠なかしさを時代をてぐ
[illegible]
さげをまを野乃ぐぶ史好
をりをあひをくを鏡をふ
分ちぐ若乃男ハ出れ学ぶ
と申てばをむるぶ乱く
をやむりれ拙ぶをつをて
をまを乃野守の鏡人を乱



みなの事を見て行徳の故なり
と思ふ事なるを使ふべく冥神の
位きる場乃為に前後を
き新々の神事乃如く
る其法乃真あるべし冥神の
明鏡あるべく神を

八方を経つゝ南無帰依佛
有縁の地を動う冥神を
感ぜしめ
一切成道乃法を
冥神を探で
ちれうるべ





249
1

著作權所有

寛政十一年三月初版
明治二十六年七月改訂三版
明治四十三年六月増訂五版
明治四十四年六月廿五日増訂六版印刷
明治四十四年七月一日發行

嘉永六年五月再版
明治三十五年八月改訂四版

故

著作者　寶生太夫

東京市深川區吉永町七番地
寶生九郎

東京市日本橋區通四丁目八番地
江島伊兵衛

東京市日本橋區通四丁目八番地
椀屋謡曲書肆

校訂者
校續者
發行兼印刷者
發行所